

四 季 の 訪 問

(112)



西松建設株式会社
代表取締役社長

近 藤 晴 貞 氏

(時習23回)

- 略 歴
- 1971年3月 時習館高校卒業
 - 1976年3月 東京工業大学 工学部卒業
 - 1978年3月 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 社会開発工学専攻 卒業
 - 1978年4月 東京工業大学大学院 西松建設株式会社 入社
 - 1978年4月 首都圏建設現場勤務
 - 2003年4月 同社 関東支店建築部長 兼品質管理部長
 - 2005年6月 同社取締役 関東支店長代理
 - 2008年6月 同社取締役 常務執行役員
 - 2009年6月 関東支店長
 - 2009年6月 同社代表取締役社長就任 現在に至る
 - その他団体歴
 - 2012年5月 東京建設業協会会長就任
 - 2014年5月 (2014年5月26日退任) 全国建設業協会会長に就任

『時習の灯』15春号の「濃緑の丘に集いし我ら」にご登場いただいた近藤氏。「西松事件」後に社長に就任された由を拝読し、経緯やその後、更にはお人柄までも詳しく伺いたく、五月晴れの朝、虎ノ門ヒルズ10階の本社に編集部3人で伺いました。

* * * * *

▼蒲郡出身

蒲郡の塩津生まれです。保育園から小学校まで同級生はずっと一緒の99人。保育園・小学校は片道1時間半を徒歩で、中学校は自転車で30分ほどかけて通いました。いまこうして健康で仕事ができるのはこの時に培われた体力と気力が礎となっているような気がします。毎日の食事も地元魚介や野菜中心だったことや温暖な気候の中で生活できたことに今は感謝しています。

▼時習館にて悪友たちと出会う

塩津中学からは3人時習館に入学しました。7時には家を出て、名鉄、東海道線、渥美線と乗り継ぎ、校門にすべりこみセーフで到着しました。蒲郡勢は同じ顔ぶれ、顔見知り。朝の通学時間はボックス席で勉強していました。本当ですよ。

卓球部に3年間所属し、3年の夏前に東三河予選の個人決勝で敗退し、引退となりました。ですが、高校時代の思い出は仲間と一緒に食べたものと共にあります。土曜日は漫画がおいであるうどん屋(漫画は「巨人の星」や「あしたのジョー」だったか)や愛大の食堂にも行き、空腹を満たしました。豊橋駅構内の壺屋のうどんは今も立ち寄るほどの郷愁の味です。

3年時はおかしなクラスで、勉強はいま

ひとつでしたが、クラスマッチなどでは結束が固く、優勝もしました。今でもクラス単位の同窓会をしばしば開き、毎回20人くらい集まります。一昨年は担任だった加藤吉史先生が退官されたので囲む会を催しました。

中部中学出身の友だちの家に私服を置いておき、学校帰りにそっと着替えてパチンコにも行きましたが、ばれたことはありませんでした。これ、時効ですね。

そんな調子でしたので一浪しました。ただ、同じクラスの男子で、現役で進学したのは10人くらい、あとは浪人でしたから。河合塾を経て東京工業大学の6類に進学しました。

▼東工大で建築を学ぶ

大学に進学した頃は建設ブームで、6類の100人のうち、50人は建築に進みました。4年の時に研究室に入るので、意匠、構造、設備のうち、メシの喰いっぱぐれがなさそうと構造の研究室を選びました。構造の中でも亜流である土木と建築の中間の地盤工学を専攻しました。学部を卒業する時、麻雀に明け暮れて4年間何もやって来なかったと思い、もう一度勉強しなければと大学院に進学しました。推薦でなく一般入試で、です。麻雀と言えば、こんなことも。大学と大学院の5年間は田園調布の産業能率大学の理事長の3人のお子さんの家庭教師をやっていたのですが、麻雀でなかなか抜けられず「大学で実験が長引いてしまっって遅れます」と嘘の電話をしたこともありました。これも時効ですね。3人のお子さんのうち、ご長男が今、理事長をやっています。少し前の四季の訪問

に産能大の学長が載っていらっしやるのを拝見し、懐かしく思い出しました。

▼西松建設に入社する

就職にあたって、その頃はオイルショック後の就職難の時代で、大学に1社1名の募集しかありませんでした。それを成績ではなく、ジャンケンで決めるのです。ジャンケンで決まるのは何だかなと思っていました。

研究室の先生が西松建設の構造の課長さんと大学の同期だった縁で、推薦してくれて西松建設に入社しました。大学進学もそうでしたが、蒲郡の家族に相談したり、経過を説明したりすることは一切なく、就職先も決まっていたので事後報告でした。次男という気楽な立場だったからかもしれないね。

西松建設では設計部門の予定で入社したのですが、入社面接の際、希望勤務地を問われ、スキーができる方がいいと言ったら、上越新幹線の燕三条の駅舎の現場に配属され、以来設計に戻ることはありませんでした。

東京で大きな現場も経験しました。JV(ジョイントベンチャー)での霞ヶ関合同庁舎5号館や神保町の三井ビルなど、2003年の50歳までは現場一筋でした。

▼社長に就任する

「西松事件」では役員ほとんどが検察の聴取を受け、私もガサ入れとして書類、パソコン、携帯電話までも押収されて調べられました。今も電車通勤ですが、その時も夜討ち朝駆けの記者に待ち伏せされ、駅までの道すがら質問されるのは閉口しました。

社内の調査委員会の委員長を務めたこと

もあってか、周りの方たちから社長就任を示唆されました。本社勤務の経験もなく、財務諸表の読み方もよくわからず、一度はお断りしましたが、最後は引き受けました。何故受けたのか？学生時代から「その時をきちんとやろう」、「知らなくても何とかならやろう」という哲学のようなものがあつたこと、また、三河の温暖な気候で楽観的な性格に育ったことに起因しているのかもかもしれません。

リーマンショック直後、民主党政権下での建設業界への逆風の中、2009年に社長に就任しました。スタートは国土交通省の記者クラブでの謝罪会見からでした。

社長就任も新聞発表の前日にやっと家族に話したぐらいで、就任のお祝い事は一切ありませんでしたが、唯一、悪友の浅見秀樹君が何を思っただけか激励会を開いてくれました。

社長就任後は事業構造の改革や自主退職の推奨などの大手術に当たり、私自身も給料50%カットで3年間過ごし、今はやっと社会貢献を目指す会社になってきたかなと思います。

▼経営哲学

全てのステークホルダーとWin-Winの関係でありたいということでしょうか。ステークホルダーは株主、企業先、社員、関連会社だけに限りません。社会も大切な一つです。

例えばです。ゼネコンである以上、受注した工事を全うするのは当然のことですが、ゼネコンだからこそできる社会貢献もあると考えます。東日本大震災で大きな被害を

被った宮城県名取市。区画整理事業の業務代行を引き受けたご縁で市内には私有地があります。震災後はそこを仮設住宅用地として2年間無償提供し、その後は地代を払ってもらい、そこから必要経費を引き、残りを「まちづくり基金」としました。市内の市民団体に助成し、復興の後押しをしたいと考えました。仮設住宅の隣にひまわりの苗を植える「ひまわりプロジェクト」も毎年行っています。

意欲のある人がどういった街にしたいか明確な意思を持って復興に取り組めば、街は活性化し、その地域の価値が高まってくると思います。それが即、我が社への受注につながると思います。名取での活動に共感した優秀な若者が入社してくれるとかいろいろな形で返ってくるかもしれません。

もうひとつふたつ地域関連の話を。街に同化するものを建てるという例では日吉の社宅の跡地に国際学生寮を建て、ある大学に役立てていただいておりますし、蔵市の古い社宅と独身寮は地域の防災拠点となる免震構造の建物に建て替え、備蓄品も置き、万が一の荒川の氾濫にも対応できるようになっています。

社会貢献という意識を持って地域と向き合うことが私たち建設業へのまなごしを変えられる力になると思っています。これもWin-Winです。

▼建設業のこれから

今はこうしてこの虎ノ門ヒルズに入っていますが、隣の本社ビルはオリンピック前に竣工予定です。2020年の東京オリンピックを控え、またその後も見据えて、東京の街をどうしていくか考えるのもひとつ。

東日本大震災で最も印象が残っているのは、地域の建設企業が果たした初動対応です。すなわち、自身が被災しながらも緊急物資を運ぶ道路の啓開や行方不明者捜索への協力など、命に直結する部分への対応です。震災前、東北の地域建設業は経営が厳しい中、何とか踏ん張ってきた、踏ん張ってきたからこそ初動対応ができたのです。地域を熟知し、愛している人の存在がいかに大事か痛感しました。

ここにいると不景気は感じませんが、一部を除き、地方の景気は良くありません。全国建設業協会の会長を務めていることもあり、実情を知っています。地域建設業が倒産していたがゆえに初動対応が遅れ、犠牲が広がったとしたら：それは人災ではないのかという危機感も持っています。

地域建設業の持続可能性を高めるといふのは未だ途上段階で、もうひとつの課題であると思っています。

▼ゼネコンの野菜

東日本大震災後に本業の延長として、培ってきた技術を食環境の提供に結びつけられないものか模索していたところ、本業でお付き合いのあった玉川大学から「LED農園」事業のパートナーへとお誘いがありました。



互いの強みを活かした産学連携事業として新規事業「LED農園プロジェクト」がスタートし、農園レタス(夢を運ぶ野菜「夢菜」と命名)の生産から販売までの運営を行っています。「食の安全と安心」、「安定的な食料供給」、「地域農業の活性化」、「少子高齢化に伴う労働者問題」等に寄与できる新しい農業の形を追求しています。もうひとつのWin-Winです。

▼プライベートのお話を

ふだんの夜もお酒の会合があったり、週末は週末で地方での起工式竣工式などの行事が入り、なかなか妻とゆっくりできません。ゴルフもやりますし。

愛読書ですか。何年前か、同郷の作家だからと勧められて宮城昌光の『草原の風』(後漢の世祖・光武帝劉秀が主人公)を手にして以来ハマリ、宮城昌光作品は殆ど読んでいるのではないのでしょうか。今は宮城谷三郎『三国志12巻目の半ばに差し掛かっています。32歳と29歳の息子がいますが、2人ともまだ結婚せず家にいます。早く孫の顔を見てみたいと思っています。

* * *

忙しい業務の中、終始笑顔でご対応いただきました。日本経済新聞「交遊抄」(2014年1月3日)で、建設会社にいるのは高校時代の悪友(稀代の人たらしとも)の影響も大きいと語っていらっしやいます。高校時代の交友関係が今もそのまま続き、社長の顔の下から時々高校生の腕白の顔がちらっと覗く近藤さんも、稀代の人たらしとお見受けいたしました。

(織田 美幸)